



AEDに関してこんな調査結果が！

—西日本防災システム

2016 10

京都大健康科学センターの研究結果です。

NBS 119

2005年から2013年に全国で救急搬送された心室細動患者について、消防庁がまとめたデータを活用して、一般市民によるAED使用の有無と、1カ月後に患者の脳機能がどの程度回復しているかを調べたそうです。その結果、一般市民によるAEDの措置を受けた患者の割合は05年の**1.1%**から13年には**16.5%**に増え、順調に回復した患者は6人から201人へと**大幅に増加**しています。公共の場に設置されたAEDの台数は、約1万台から約**42万台**まで増えています。

AEDの使用により、**間違いなく多くの命を救っているようです。**

AED: 心臓が細かく震えて血液を全身に送れない心室細動を起こしている場合に、瞬間的に強い電気ショックを与えて、正常な状態に戻す機械。心室細動を起こすと1分経過するごとに救命率が約10%低下すると言われていて、5分以内に電気ショックを与えるのが望ましいとされています。2004年から医療従事者以外でも使えるようになっています。

参考:心肺蘇生について



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

